

# ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education



第41号

発行 北海道 N I E 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

## 長野でN I E 全国大会

第14回N I E全国大会(日本新聞教育文化財団主催、信濃毎日新聞社など主管)は7月30日、31日の2日間、長野市・長野県民文化会館を主会場に開かれた。全国から小中高校の教員、教育・報道関係者ら約千人が参加。大会参加が信州大学の教員免許更新講習に組み入れられたせいか、これまでになく公開授業の様子や実践報告を熱心にメモし、積極的に発言する教員の姿が目立った。

# なぜ新聞か問う

## 更新講習兼ね熱心に

### 宮の森中 古畑教諭がパネリスト

大会テーマは「わかるひろがる つながるN I E」。開会式では、同財団の内山斉理事長があいさつ。諏訪中央病院の鎌田實・名誉院長が「命は人と人のつながりで守られる」と題して記念講演した。

引き続き「N I E、身近に引きよせるために」をテーマにパネルディスカッション。信濃教育会N I E研究調査委の市川文夫委員長が長野県のN I Eの現状とこ

れからについて基調提案し、札幌宮の森中・古畑理絵教諭ら4人のパネリストが発言した。



しかし、長野県のパネリストが「教師は忙しい。さまざまなメディアがある中で、なぜ新聞を使わなくてはならないのか」とN I E活動に疑問を投げかける発

言を繰り返したことから、テーマを深められず、他のパネリストが新聞の有効性を具体的に上げて説明する内容にとどまった。

古畑教諭は、道内の活動や宮の森中での実践を報告し「写真したあと「なぜ新聞でなくてはならないのか」は第一歩。そこから新聞をどのように活用するかに発展するはず。宮の森では多面的なものの方を考えて新聞を使っているが、生徒から社会に関心を持ってたという感想があり、成果を感じた」と述べた。

小学生の頃新聞が楽しかった。毎朝新聞を持ってくるのが私の役目。父親の読み終えるのをじっと待っていた。ようやく私の番。スポーツ面、テレビ欄そして3面記事に目を移す。痛ましい事件事故の記事が目にくぎ付けになる。最後に1面記事。政治経済が中心の内容で詳しいことは解らぬが、見出しの大きさや表現で世の中の大体の流れはつ



## 感性育てる活字の情報

北見市小泉小校長 国兼 秀也

かめた。漢字は読めなくても前後の文脈から意味はわかった。私は戦後の混乱期がようやく

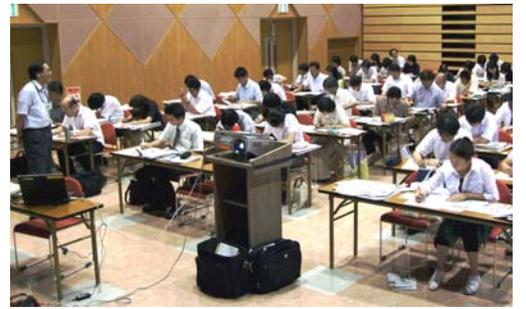
ちの感覚は鋭い。社会や政治についての情報も適度に判断できる。時代の光と闇を10代の感受性の豊かな少

年少女たちが見つめていた。このような背景の中、情報は新聞が一番だった。情報化社会と逆行し、活

の映像しか頭に入らない。じっくり考え、再考する余裕がないのである。映像から得る情報と活字から得る情報とは根本的に質が異なる。洗練された文章の記事は学習に大きな効果をもたらす。

# 記事スクラップ レポートを提出 免許更新講習

大会閉会後、会場のノルテ長野で信州大学の教員免許更新講習「たかが新聞されど新聞」(2時間)が開かれ、本道を除く全国から80人が受講Ⅱ写真Ⅱ。小山茂喜准教授から生き生きと気軽に出来るNIEについて講義を受けたあと、教材化のトレーニングとして記事スクラップしたりレポートを作成、提出した。リポートが合格点に達すれば、免許更新講習に必要な30時間以上のうち、大会2日間と合わせ計6時間の受講が認定される。吉田准



教授は「大会直前と期間中にも申し込んできた教員が約40人いたが、全てお断りした。NIEに関心の高い先生は予想以上に多い」と話している。

## 「リライト新聞」対決! 函館セミナー 青木教諭 国語の授業公開

当協議会主催の第8回函館セミナーは7月2日、函館白百合学園中学高等学校で開かれた。青木沢子教諭による中学3年A組(22人)の国語の授業「一面対決!」が公開されたほか、小中高校の3教諭が実践発表した。

函館市内などから25人の教員、教育関係者らが参加した。公開授業は5時間抜きの4時間目。前時に2人1組になって作った「リライト新聞」をそれぞれ発表しⅡ写真Ⅱ、クラスメート



と評価し合った。

## NIE全国大会に参加して

大会1日目に行われた、諏訪中央病院名誉院長の鎌田實氏による記念講演は、私にとって改め



て「人と人とのつながり」の大切さを実感させられた講演となった。私自身が今回の全国大会に参加できたのも「人との温かいつながり」があったからこそだと思っている。

## 札幌市百合が原小教諭 菅原 隆司

この場を借りて皆様に感謝申し上げます。鎌田氏が講演の中で語った「どの命も縦につながっていることを忘れてはいけない」という熱い

## 新聞は人と人をつなぐ

言葉に大変感銘を受けた。また鎌田氏が訪れたさまざまな国の人々とのつながりを、写真をもとにしなが、熱く語り、新聞にそのヒントがたくさあつたことを聞き、さらに感銘を受けた。

続いて行われたパネル

②違う視点を見つづける  
③社会に関心をもつ、といった成果があつたことを聞いた。

大会2日目は、長野市吉田小での社会科の公開授業を参観した。授業者である同小の竹内隆司教諭は、子どもたちが「裁

ディスプレインでは、

大変具体的な報告や話し合いが行われた。中でも札幌市宮の森中の古畑理絵教諭は、より具体的な教科での実践例を報告した。特に新聞を活用した授業で、子どもたち1人1人が①自分の考えをも

「心を開いて心をつなぐ新聞教育」をテーマにした第52回全国新聞教育研究大会が8月1日、横浜市で開かれ、教員ら230人余りが参加した。道内からは帯広市啓西小の森谷栄介教諭が小学校NIE講習会で発表者を務めた。同教諭は昨年、5年社会科の情報を学ぶ単元で、岩手・宮城内陸地震に関し、十勝毎日新聞と北海道新聞、被災地の地元紙・河北新報を読み比べた。どの新聞も一面で報じているものの、河北新報は行方不明者の実名などを詳細に書いているほか、写真の枚数も多く、扱いが大きいことを確認し「地域住民が

## 地方紙読み比べ

全新研大会

## 帯広・森谷教諭発表

新聞には、興味を持った記事を縮約して掲載、題字、見出し、イラストも付いている。生徒たちは工夫点をアピールしながら発表した。「評価し合うことで、記事の論理展開や表現の仕方などを身に付けるのが狙い」(青木教諭)という。実践発表では、函館中部小の青山勝賢教諭が、1年の授業で、「だれが何をどうした」などの文型を作り、表現力をつける学習を紹介。「見出しに助詞が抜けしていることを気づかせ、文章を作らせた」と述べた。

昨年の全道かべ新聞コンクールで準大賞を獲得した松前町大島中の岩本宜之教諭は「新聞づくりで、子供たちが地域に関心を持ち、生きる力を身につけるよう指導している」と強調した。函館水産高の山本かおり教諭は、生徒指導部便り(毎週発行)に新聞記事を掲載している。「社会に出て困らない程度の国語力を身に付け、社会の動きに目を向けて欲しい」と記事を使っているが、新聞を読むようになった生徒が増えた」と説明した。

求めている情報を大きく、丁寧に取り上げる地方紙の特徴を学ぶことができた」と話した。同じ講習会で、京都市吉祥院小の小林正教諭は「自由と責任」について考えた5年の道徳の授業で、韓国の女優がインターネット上に書き込まれた中傷に悩み自殺した記事を取り上げた。文中にある「表現の自由」という言葉をキーワードに学習を進め「自由」と「自分勝手」は違う、という結論を導きやすかった」と発表した。会場からは「自殺を伝える衝撃的な記事を、授業で使つていいものか。記事の選び方には配慮も必要」などの注文も出たが、試行錯誤を重ねた指導内容に、参加者は熱心に聞き入っていた。(船木理依・北海道新聞NIE推進センター委員)

# 最新の労働問題考える

稚内商工高の半藤幸広教諭は、学校が設定した、3年対象の選択科目「時事問題演習」で、新聞記事を教材にしている。求職生活を支える実践的な知識や心構えを記事から学ぶ授業、生徒たちからは「関心のある問題をイラストなどで解説しており、分かりやすい」と好感を持たれている。

(北海道新聞NIE推進センター委員・小田原賢二)

## 稚内商工高

見学した授業は7月上旬。生徒は就職希望の32人。この演習は週3回実施しており、1学期は就職後の対策として労働者問題を取り上げている。教材となったのは、同教諭が「商工キャリア新聞」として朝日新聞から抜粋し

### 「非正規」事情、雇用保険の重要性

## 実践的内容興味引く

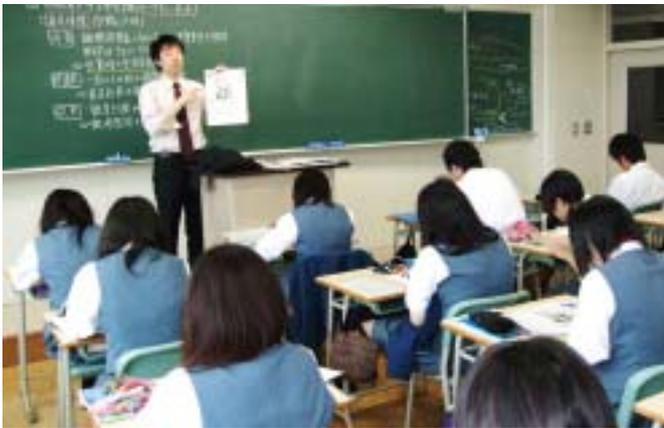
「非正規」事情、雇用保険の重要性  
見学した授業は7月上旬。生徒は就職希望の32人。この演習は週3回実施しており、1学期は就職後の対策として労働者問題を取り上げている。教材となったのは、同教諭が「商工キャリア新聞」として朝日新聞から抜粋し



述した部分に目をこらし、アンダーラインを引いた。さらに、職業訓練や再就職支援を強化して失業手当の給付期間を短くする欧米諸国の傾向。日本でも職業訓練の受講を条件に生活費を支給する時限措置「緊急人材育成・就職支援基金」(仮称)が創設されることなどを学んだ。

切り抜き活用法報告  
道NIE夏季研修  
北海道NIE研究会(会長 日下部憲一・札幌市宮の森中学校長)主催の「夏季研修会」は8月11日、北海道新聞社で開かれた。道内各地から約40人の教員らが参加、実践報告のパソコンを使ったかべ新聞作り、学校図書館での切り抜きファイル作成や活用などに耳を傾けた。写真。

実践発表では、札幌市北九条小・佐藤元昭教諭が、農水省など主催の「新聞ブログを通じて地域の食文化を学ぼう」プロジェクトに参加した。3年にとって初めての新聞作りだったが、また作りたいという意欲が湧いた」と話した。石狩翔陽高・谷口初江学校司書は、予算不足のため、先生たちが購読している新聞3紙を持ち寄って切り抜きファイルを作成し、授業に幅広く役立てていることなどを報告した。



いて質問。生徒たちの関心は高く、発言が相次いだ。同教諭は再就職の際、福利厚生欄で雇用保険など各種保険が加入しているかどうかをきちんとチェックしておかないと、後悔することになると強調した。

「話題を取り上げている記事だと、生徒たちはTVニュースなどで見聞きしている。理解が早い。授業にも集中して取り組む」と話している。

活用度満点のガイド本  
新聞を作ることで、問題の発見、取材、記事書き、写真撮影からレイアウトまで活用方法を、初めて取り組む方向けに大変わかりやすくまとめられている。

また、さまざまな実践例が取り上げられているので、既にNIEを実践している先生方にも十分参考になると思う。(関連記事4面)

### 三叉路

高瀬 敏樹教諭

札幌旭丘高

初心者向けのNIEガイドブック「ひろがる つながらる 新聞活用」の、高校①情報部分を担当した。「情報」だけでなく「国語」「公民」や「総合的な学習の時間」でも活用できる内容になったと思う。



「新聞を聞く」教材として、「新聞作りで学ぶ」(自分たちで新聞を作ることで、問題の発見、取材、記事書き、写真撮影からレイアウトまで)活用方法を、初めて取り組む方向けに大変わかりやすくまとめられている。

# 世の中を易しく解説

全国紙の

取り組み

4

日本経済新聞社



日本経済新聞は経済を中心とした報道を通じ、不透明な時代を読み解くヒントを読者に提供するよう努めています。セミナー開催や記者の学校派遣を實踐し、政治、経済、社会の「窓」を通じて、世の中の仕組みを理解してもらえようNIE事業を展開しています。  
(日本経済新聞社社会部担当部長 浅見昭彦)

## セミナー 記者派遣 年齢に応じテーマ設定

「グレープフルーツの値上がりは日本の車が売れなくなったから」。2009年4月、こんな記事が日経に載りました。  
米国に車を輸出する時に大型の専用船を使いますが、帰国の際、何も載せないのではもったいないので、荷台に果物を積むそうです。景気悪化で米国で車が売れなくなつて専用船が減らされたため、そのお

や金融をめぐる話題は子供だけでなく大人でも難しいところ。日経ではビジネスマンが実務に役立てる経済情報から暮らしの素朴な疑問に答える記事まで、幅広い紙面を用意しています。  
経済に関する知識は新学習指導要領でも重視されました。日経のNIE事業では、新聞制作や記者の仕事の紹介だけでなく、お金の役割や商品の値段の決まり方といったテーマをわかり

## 編集後記

○…長野の全国大会では、大会の様子をいち早く伝えるカラー刷りの速報新聞が5回も発行された。制作したのは、わずか5人の高校生とあって、参加者たちを感心させた。  
○…カメラ片手に取材に走り回り、会場わきに常駐した信濃毎日新聞社の多目的広報車で編集、印刷。A4判裏表の速報は、写真が多く、分かりやすい記事で、評判が良かった。  
○…当初は多くの高校生で分担するはずだったが、同時開催の全国高校総合文化祭への参加が増えたため5人に減ったという。「時間内に記事を書くのは大変だった」「公開授業など普段やらない取材ができて、楽しかった」  
○…興奮気味に語る彼らを見ると、速報の発行を通じて、学ばせ側と教える側がつながる。NIEはこんなところからも広がっていると思った。まさに大会テーマを實踐してみせたような高校生の活躍だった。(小)

## 9月のセミナー 江差と網走で

当協議会主催の第3回NIE江差・松山セミナーは9月5日(土)午後1時半から江差町役場(江差町中歌町193)で開かれる。第7回NIE北見・網走セミナーは同18日(金)午後12時半から網走市白鳥台小(網走市北浜)で開場。午後1時半から同小の小中理司教諭が5年道徳の授業を

お知らせ

公開する。実践発表者と助言者は次の通り。

- ◇江差・松山▽発表者 江差小・黒瀧康子教諭、江差町南が丘小・山本雅樹教諭、江差中・山下尚宏教諭、松山北高・石崎洋志教諭、江差高・岩間洋之教諭▽助言者 江差町教育委員会・田中俊一指導主事
- ◇北見・網走▽発表者 白鳥台小・中野裕子教諭、網走小・長屋樹廣教諭、大空町東藻琴中・齊藤えり教諭、清里高・大崎敦子教諭▽助言者 網走教育局・湊秀樹指導主事、北見市教育委員会・木野村寧指導主幹